

編集後記

この巻は「特集テーマ」で一苦勞でした。当初「ジェンダー・フリー」で考えていたのですが、あまり原稿が集まらず……。果たして行き過ぎなのか、未来を切り開くのか、興味深いテーマでは、と思ったのですが。しかし女性学は、本来、女性のより豊かな生き方を追求する貴重な方法の一つです。今後めげず、いろいろな企画をしたいものです。(M. K.)

特集のテーマを決めるのが、だんだん難しくなっているように思います。斬新な(新鮮な)テーマを見つけにくくなったということは、ある意味では女性学の成熟を意味しているのかも知れませんが、いずれにしても、編集方針を考え直すべき時期に来ているのかもしれない。とは言え、なかなかいい考えは浮かばないのですが。(M. K.)

久しぶりに編集委員をしました。前回務めた時と比べると、内容の幅が広がり、アプローチも多様化したように思います。学生の応募論文からも「女性学」の裾野の広さを実感しました。本誌のいっそうの発展と学生のさらなる奮起を願います。(W. M.)

今年度は当初原稿の申し込みがほとんどなく、心配しました。来年度は、所員の皆様の積極的なご投稿、ご推薦を大いに期待いたします。また今年度は、女性学インスティテュート最優秀賞の論文を掲載することができましたことを、心から喜んでおります。編集委員の先生方、ありがとうございました。来年度も、どうぞよろしく願いいたします。(T. T.)

.....